



後継者の熱い意志表示により 先代が元気なうちに承継を成功

株式会社 五十嵐商会

東京都北区東十条5-5-13
設立:1973年(昭和48年) 資本金:1,000万円 従業員:20名
URL: <http://www.igarashi-c.com/index.html>

主な業務内容 梱包資材・包装資材の卸売、パッケージ用品および事務用品の店舗販売

会社の後継問題を見つめ直す

現社長の五十嵐幸子氏の父である先代の勝昭氏が1973年に創業した、梱包・包装資材の卸売・小売。「大学卒業時は、会社を継ぐという意識はなかった」と語る幸子社長。新卒で、企業の与信業務などを調査する会社へ就職。しかし就業から4年後、両親が高齢になったことや会社の後継問題をきっかけに、会社の存続について真剣に見つめ直した。「私が小さい頃、従業員のひとと遊んでもらった記憶や、お店番

をして楽しかった記憶がふと蘇った。両親が長い間かけて作りあげてきた会社がなくなってしまうのではと考えた時、寂しさや不安より先に、なくしてはいけないという使命感に近いものを感じ、私が最大限できることをやろうと決めた」と語る。また、前職の経験で、経営者や経営そのものに対してより興味が強くなっていったことも、承継を決意する上で大きかったという。

創業者の思いの承継

「私は女性で兄妹でも末っ子。男性に継がせるのが一般的でしょうし、優秀な社員も多いので従業員承継も考えていたかもしれない。私の場合は、継ぎたいという意志を持って、前社長である父に話をしたのが始まり。私が社長になれたのは、親として相当な決意をしてくれたおかげだと思う」と先代に感謝を示す。承継に関しては、以前から同社で就業している兄妹も交えての話し合いで決定。現在も、一緒に働き、幸子社長をサポートしてくれているという。入社後先代から教わったことは「支払日人生で一番楽しい日」という社訓とともに、人を大切にしろということだったという。その後3年間は、事務や営業の経験、財務等を学びながら承継の準備を進めた。



前代表取締役
五十嵐 勝昭氏
(1943年生まれ)

代表取締役
五十嵐 幸子氏
(1986年生まれ)



1 支援担当の酒井先生と。円滑な支援関係も成功の要となる
2 先代が作った社訓を従業員全員でつなぐ



2

事業承継年表



後継者が
当社へ入社

3年前



先代社長が伴走して引き継ぎ

BSDによる支援開始

1年前



2016年
代表者交代

BSDを利用し、事業承継と経営強化のサポートを受ける

社長就任前、店舗の売上減少に歯止めをかけるため、東京商工会議所のビジネスサポートデスク(BSD)に相談した。BSDのコーディネーターからは、売上アップのアドバイスだけでなく、事業承継に関してもサポートを受け、承継にあたっての心構え、

社員と意思を合わせることの重要性などソフト面についても教わったという。特に「社員の思いを聴きつくす」ことに関しては、後継者である社長の重要な役割として、今も取り組んでいるという。

何があるか分からないから、承継は早いほうがいい

承継時、幸子社長は30歳。周囲から承継には早いのではとの声も多かったのに対し、「前社長が高齢になっていることもあり、承継を遅らせることによるリスクはなるべく避けたいと思った。先代が元気なうちに会社の経営について話し合いをして、

同じ経営者という立場で経営理念や創業者の精神などを改めて考える時間をつくることに必要でした。現在もその創業者の精神をどのように醸成させるか日々考えながら社業に励んでいます」と語ってくれた。

事業承継を考えているみなさんへメッセージ



承継を迷われたら、専門の相談機関を活用するのが良いと思います。例えば、私の場合は、東京商工会議所の支部の担当者を通じてビジネスサポートデスクの支援を活用しました。特に、後継者になる場合には、周囲のサポートが必須だと思います。前社長のサポートもとても大切です。社外でも頼れる人を積極的に探し求めてみてください。

ビジネスサポートデスク担当からのメッセージ



同社の事業承継成功のポイントは、①先代が築き上げた強い理念と経営基盤、②会社ではなく「経営課題を引き継ぐ」という後継者の覚悟、にあります。明るく前向きに「経営課題」と向き合い、次のサクセスストーリーを創り上げようとする五十嵐社長の姿は本当に頼もしいです。